

FCY(フルコースイエロー)運用手順

- 競技長は決勝レース中において、安全上の理由(車両が危険な場所で停止したとき、マーシャルがコース付近で作業しているとき、また類似する状況が発生した場合)で“フルコースイエロー(以下、FCY)”を宣言することができる。
- “FCY”宣言はタイミングモニターおよびレースコントロール無線で行われFCYのカウントダウンが始まる。
 - ①宣言が行われた約10秒後に、全ポストにおいてFCYボードが提示される。この時点から追い越しが禁止され、ドライバーは周囲の安全を確認し減速の準備を始める。
 - ②FCYボード提示の約10秒後に全ポストにおいてイエローフラッグが振動表示さる。この時点からコース上での走行速度は上限50km/hに規制され監視が開始される。
- FCY導入後は危険回避(事故現場付近の通過など)を除き、50km/hの一定速度で、且つ1列縦隊で走行しなければならない。不要な蛇行運転、加減速は禁止される。
- 50km/hの一定速度を超過、もしくは低速走行の場合は審査委員会に報告され、ペナルティが課される場合がある。
- ピットレーン出口は開放されたままとなる。ホームストレート上を走行中の車両は、ピットからコースインする車両が、ピットレーン出口の第2セーフティカーラインに到達するまでは追い越すことが認められる。
- 競技長は、安全上の問題が解消された時点で、車両の位置関係に関わりなくフルコースイエロー解除を宣言することができる。フルコースイエロー解除が宣言された場合、同情報はRC無線と計時モニターで伝えられ、解除宣言が行われた後に、全ての監視ポストでグリーンフラッグが振動表示される。この時点から、追い越し及び速度の規制が解除される。
- 「FCY」が導入されている間、ドライバーはドライブスルーおよびペナルティストップを消化することはできないが FCY 導入中の周回はペナルティ消化のための周回にカウントされない。ただし「FCY」導入決定の瞬間に当該車両がピット入ロラインを通過している場合は、この限りではない。
- FCY導入中のピットインは禁止され、従わなかった場合には、60秒以上のペナルティストップが課せられる。
- FCY導入後も安全上の問題が解決しない場合は、ピレリ・スーパー耐久シリーズスポーツ規則付則2に従いセーフティカー(以下、SC)が導入される場合がある。この場合、この時点での先頭車両の前にSCが介入し、SC導入が宣言される。
 - ①この時点で、全ポストの「FCYボード」は撤去され、代わりに「SCボード」が提示され、速度規制は解除される。
 - ②全車両は、安全な速度で付則に定められたSC隊列を形成する。

【FCY宣言の手順概略】

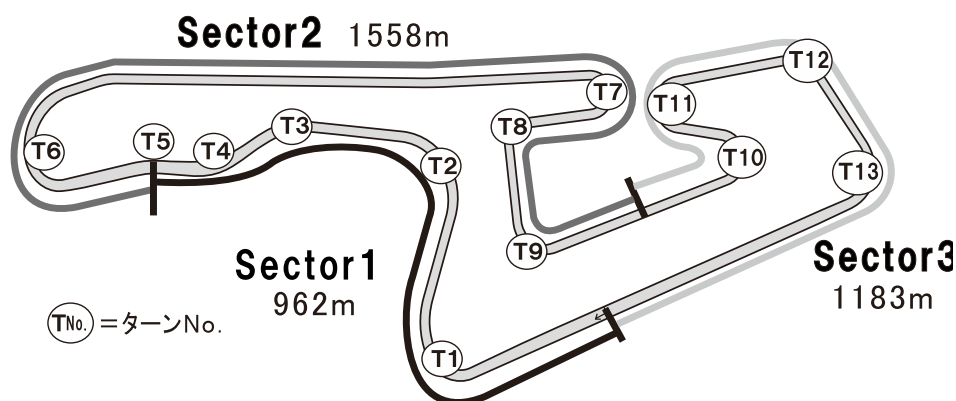
時間経過
↓

レースコントロール	監視ポストの動き	競技車両の動き
① FCY 宣言	—	—
② FCY 宣言 約10秒後	全ポストFCY ボード提示	追い越し禁止・減速準備
③ FCY 宣言 約20秒後	全ポストFCY ボード +イエローフラッグ振動表示	50km/h まで減速し、 一定速度で走行すること
④ FCY 解除宣言	—	競技再開準備
⑤ FCY 解除	全ポストグリーンフラッグ振動表示	競技再開

10. FCY導入中の速度管理

FCY導入中のセクタータイム通過時間の目安は以下のとおりとします。(小数点以下、切り捨て)

■セクター1 : 69秒 ■セクター2 : 112秒 ■セクター3 : 85秒



以上



OKAYAMA International Circuit
岡山国際サーキット